

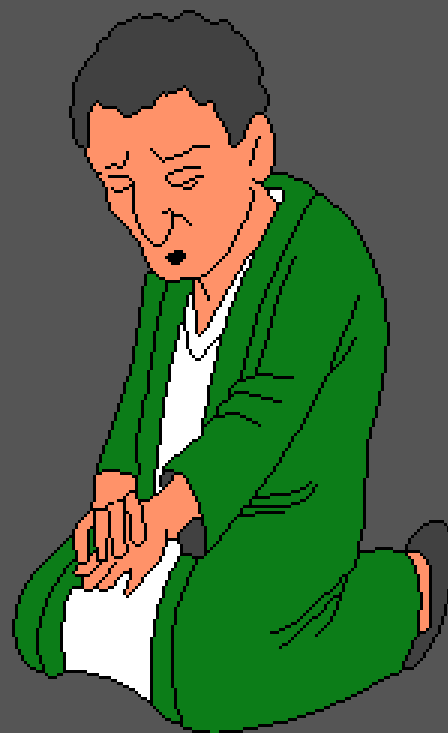
こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

ひと  
なみだの人、  
エレミヤ



<sup>ぶん</sup>  
文: E. Duncan Hughes

<sup>え</sup>  
絵: Jonathan Hay

<sup>かいさくしゃ</sup>  
改作者: Mary-Anne S.

<sup>ほんやくしゃ</sup>  
翻訳者: Yuko Kajiki  
監修者: Dan Ellrick

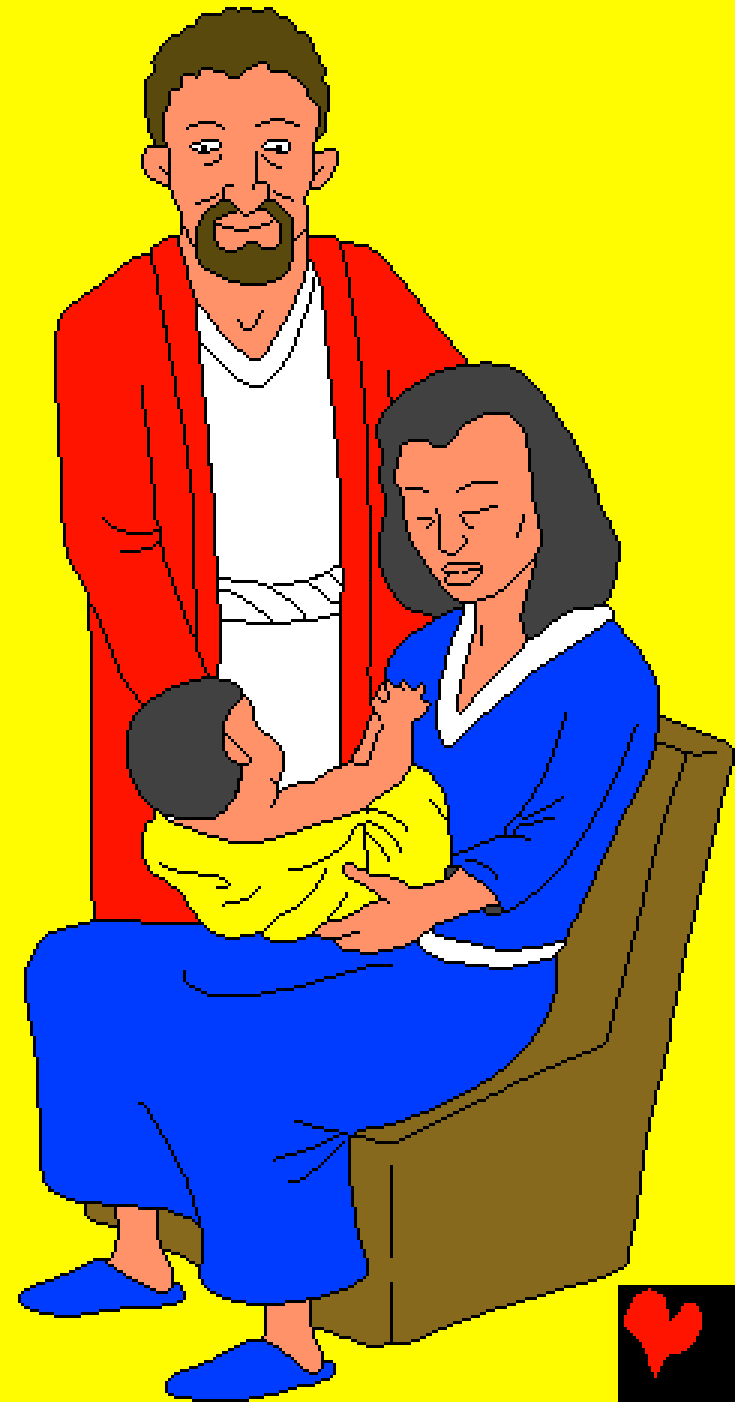
<sup>しゅっぱんしゃ</sup>  
出版社: Bible for Children  
[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

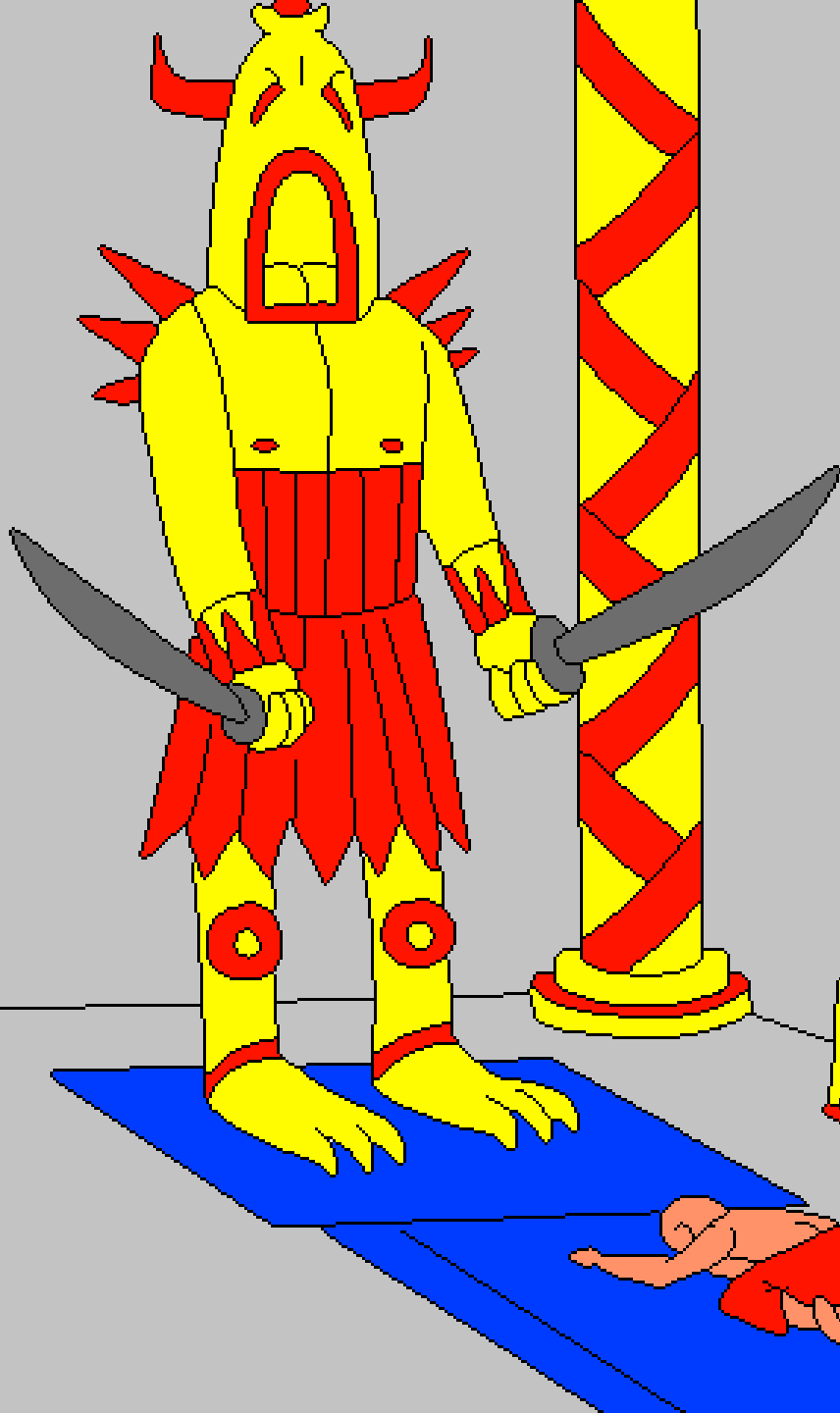
©2007 Bible for Children, Inc.

<sup>きよか</sup> 許可: <sup>たにん</sup> 他人に <sup>う</sup> 売らない限り <sup>かぎ</sup> この <sup>はなし</sup> お話の <sup>また</sup> コピー、又はプリントは、  
<sup>きよか</sup> 許可されています。



エレミヤは、ユダの王国で生まれました。  
た。かれの家ぞくはみんな、心から神  
さまを信じて生きていました。お父さん  
ヒルキヤは、祭司です。かれの家ぞく  
は、エルサレムからそんなに遠くない町  
アナソスというところに、住んでいまし  
た。エレミヤのお父さんとお母さんは  
ね、かれもお父さんのように、きっと  
祭司になるだろうと思っていたのです。  
ところが、神さまはエレミヤにもっとほ  
かのことを、計画されていたのですよ。

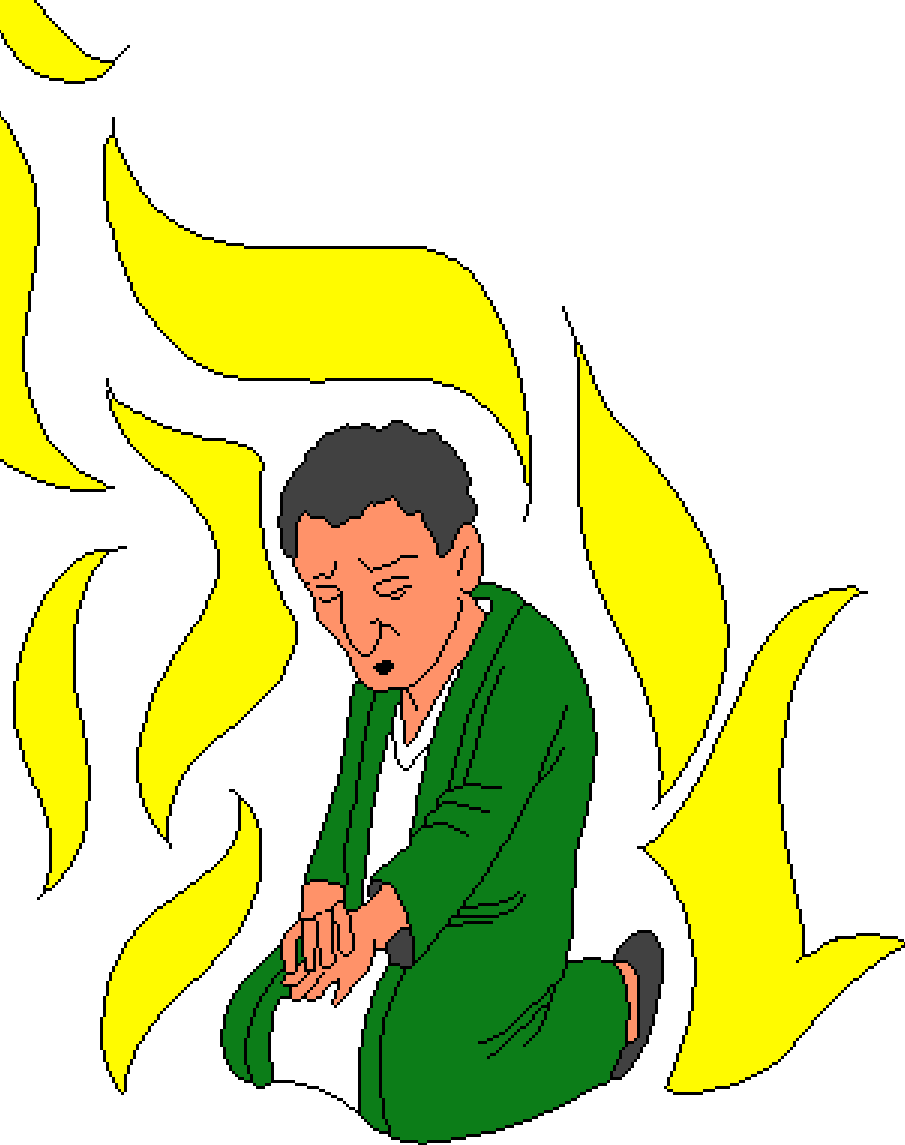




ちようどエレミヤが生まれたころ、神<sup>う</sup>さまの民は、神<sup>かみ</sup>さまのことばなど聞<sup>き</sup>かないで、好き<sup>す</sup>かってに生活<sup>せいかつ</sup>していました。王<sup>おう</sup>さまから、身分<sup>みぶん</sup>のひくい人<sup>ひと</sup>たちまで、ほとんどの人<sup>ひと</sup>たちが、うその神<sup>かみ</sup>さまを礼<sup>れいはい</sup>拝<sup>はい</sup>していたのです。しかも、神<sup>かみ</sup>さまがいらっしやる聖<sup>せい</sup>なる宮<sup>きゆうでん</sup>殿<sup>でん</sup>でね。



エレミヤが、まだわか  
もの かみ  
者だったころ、神さま  
は はな  
このように話されま  
した。「エレミヤよ、  
わたしは、おまえのこ  
う まえ し  
とを生まれる前から知



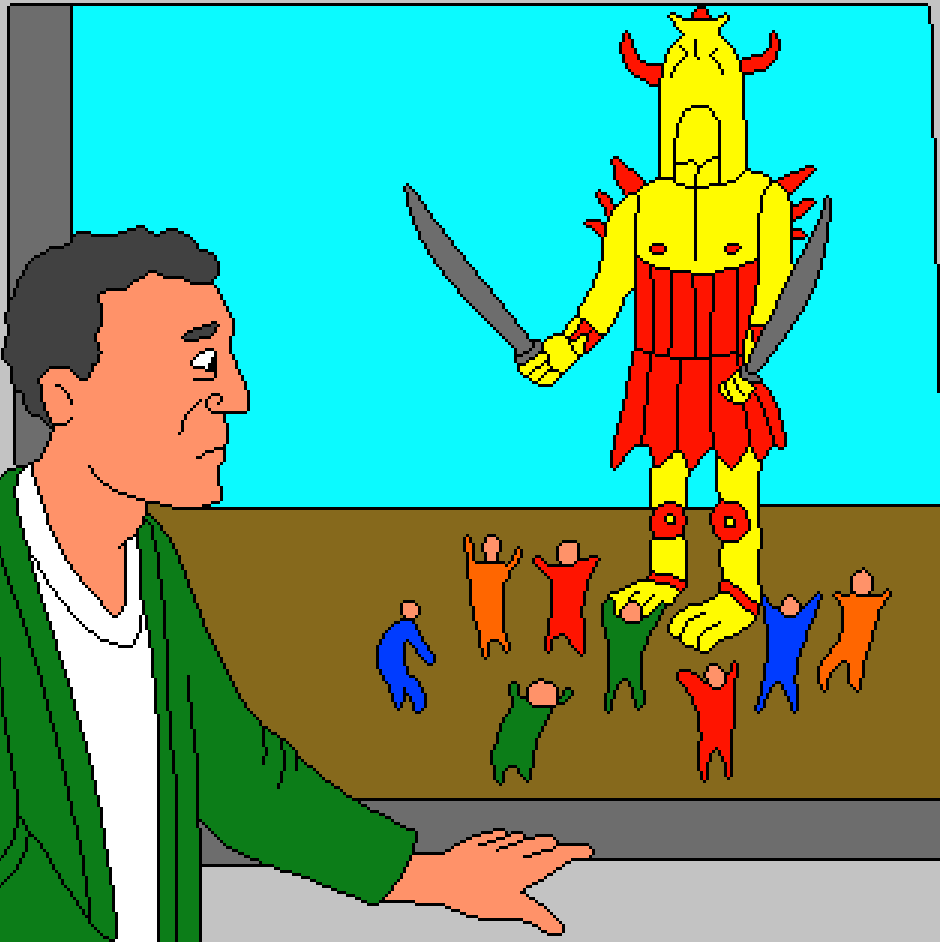
っているんだよ。」そして、また言われました。「そのときから、わたしはおま  
え けいかく  
のために、ちゃんと計画をたてているんだ。わたしのことを、人々に告  
げ ひとびと つ  
るようにね。」



エレミヤは、<sup>かみ</sup>神さまからの<sup>こえ き</sup>声を聞いてびっくり！とてもこわかったようです。

「ああ、<sup>しゅ かみ</sup>主なる神さま！」エレミヤは、<sup>さけ</sup>叫びました。「わたしには、<sup>ひと はな</sup>人に話すことなんかできません。<sup>かみ</sup>神さま、わたしは<sup>こ</sup>まだ子どもなのです。」でも、じつは、エレミヤはもう子どもではありません。そのとき、もうすでに20さいでしたか

<sup>かみ</sup>らね。それでもエレミヤは、神さまの<sup>ひとびと はな</sup>ことを人々に話すなんてとんでもないと思いました。どうして<sup>おも</sup>って、かれのまわりの人々は、<sup>ひとびと</sup>ほんとうに悪い人たちで、ひどい<sup>わる ひと</sup>ことばかりしているのですから。



「エレミヤ、おそれるな！」<sup>かみ</sup>神さまは、きっぱりとこう言<sup>い</sup>  
われ<sup>い</sup>ました。「さあ、エレミヤよ、わたしが行きなさい  
というところは、どこでも  
行くのだ！」

わたしが、話<sup>はな</sup>  
しなさいという  
ことは、なんでも  
言<sup>い</sup>うのだ！わたしが、  
いつもいっしょにいる  
のだから。わたしが、おま  
えをつかわそう。」あれっ、

それから神さまは、エレミヤに何かとく<sup>なに</sup>  
べつなことをなさいましたよ。そう、  
神さまはエレミヤの口<sup>かみ</sup>びるに、<sup>くち</sup>  
そっとふれられたのです。



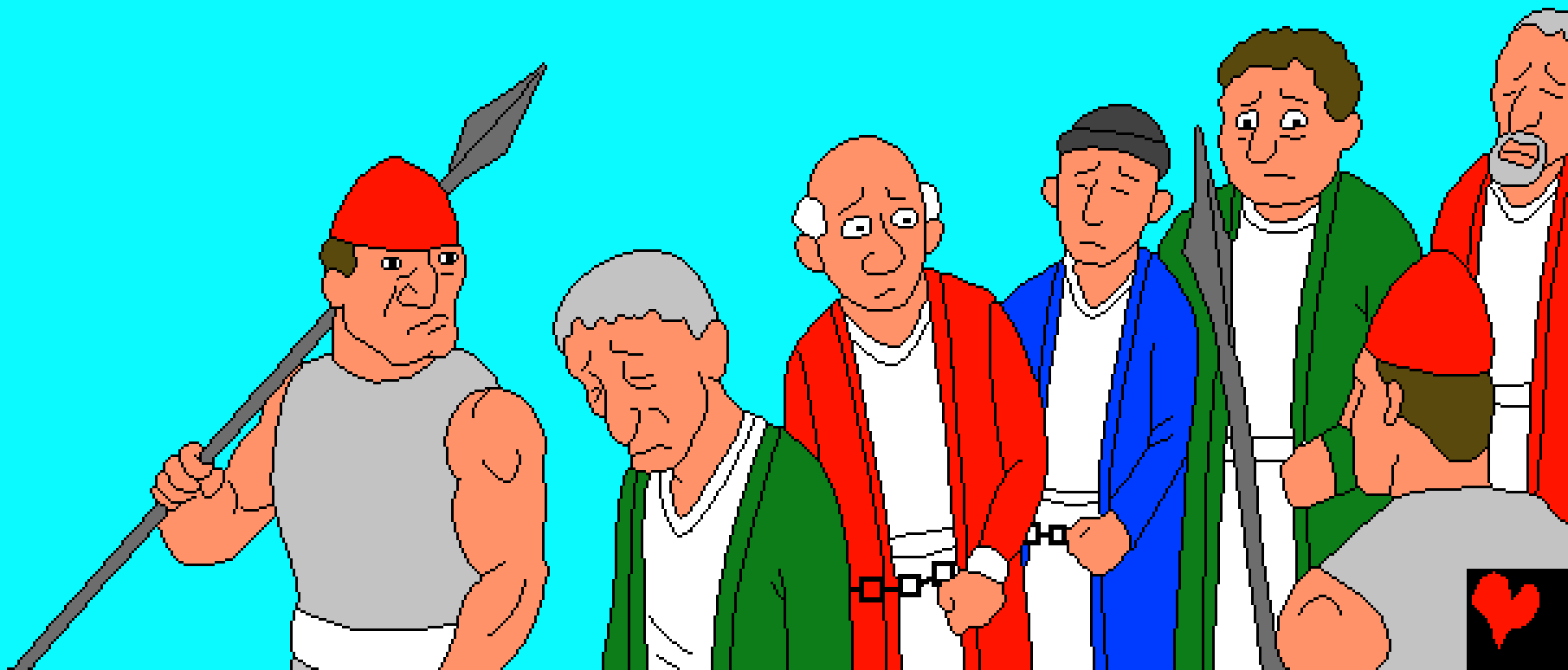
かみ ちから き ちえ あた  
神さまは、エレミヤに力、ゆう気、そして知恵を与えられました。すると、  
ひと おお こえ はな  
どうでしょう。エレミヤはたくさんの人のまえで、大きな声で話しはじめたでは  
かみ あい たす おも  
ありませんか。神さまが、愛していらっしゃること、そして助けたいを思ってい  
おも だ はな  
らっしゃることを みんなに思い出してもらおうとして、いっしょうけんめい話  
しました。でも、だあれ

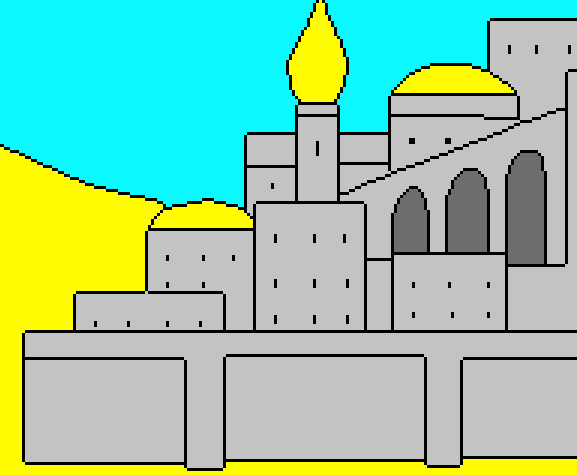
はな  
もエレミヤの話しなんか  
き おう  
聞こうとしません。王さ  
までさえもね。





エレミヤは、100年ぐらいまえにあつたできごとを、人々に思い出させよう  
としましたよ。それは、イスラエルの北の王国が、「神さまなんか、いら  
ないよ。」と捨ててしまったときのことです。そのとき、かれらのてきアッシリア  
軍の人々が、イスラエルの王国に攻めて来て、そこに住んでいた人々はみんな、  
とおいとおい地に追いやられてしまったのです。





みなみ おうこく

今また、イスラエルの南の王国、ユダの

人々が「神さまなんか、いらないよ。」と

言<sup>い</sup>って捨<sup>す</sup>ててしまったのです。てきの軍<sup>ぐん</sup>たい

が、もうす<sup>む</sup>でにこ<sup>き</sup>ちらに向<sup>む</sup>かって来<sup>き</sup>ているで

はありませ<sup>かみ</sup>んか。神<sup>かみ</sup>さまは、神<sup>かみ</sup>さ

まの民<sup>たみ</sup>が、他<sup>ほか</sup>の民<sup>たみ</sup>にやっつけられ、

とおい<sup>ち</sup>とおい<sup>お</sup>地に追<sup>だ</sup>い出<sup>だ</sup>されてしまっ

てもよい<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>っていらっしやるのでしょ  
うか。



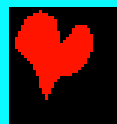
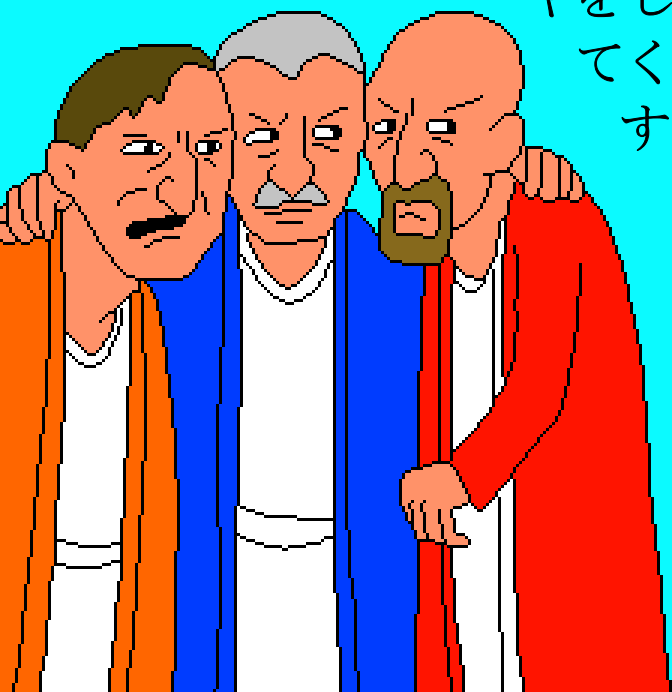
ひとびと ころろ ぞう しん ぞう ぐん  
人々は、心からぐう像を信じていました。みなさん、ぐう像は、てきの軍たい  
ひとびと たす おも けっ かみ  
から人々を、助けることができると思いますか。いいえ！決してできません。神

さまだけが、助けることができるのですね。でも、ぐう像を信じる

ひとびと かみ はな  
人々は、神さまのことを話すエレミヤに、すっかりはらをたてま  
した。じつはね、みんなは「エレミヤをころしてしまおう！」って、

けいかく  
計画していたのですよ。エレミヤは、だいじょう ぶでしょうか？

かみ  
もちろんです。神さまが、しもベエレミ  
まも  
ヤをしっかりと守っ  
てくださっています  
すからね。



かみ

とうとう神さまは、エレミヤがたいへん

い

ショックをうけるようなことを、言われまし

ひとびと

た。「エレミヤ、もうイスラエルの人々のた

いの

たす

めに、祈らなくてよい。かれらが、どうか助

な

けてくださいと、わたしに泣いてたのんだと

き

しても、いまのところ聞くつもりはない。」



そこでエレミヤは、王さまに知らせまし  
た。「あなたの国は、バビロンの軍とのた  
たかいに、負けてしまうだろう。」とね。  
それを聞いた王さま、すっかり怒りまし  
た。「エレミヤを、すぐろうやに、ぶちこ  
んでしまえ！」でも、ろうやの中でもエレ  
ミヤは、みんなに神さまのことを話しつつ  
け、神さまを心から信じつつけました。





で  
ろうやから出たあと、  
おう  
エレミヤは、また王さま  
ひとびと かみ  
まや人々に神さまのお  
はな  
話しをしました。「み  
かみ  
んな、神さまのもとに  
こころ  
もどるんだ！心から  
しん  
信じるんだ！」って。  
おこ おう  
怒った王さま、こんど  
はエレミヤを、どろだ  
ふか ちか  
らけの深い地下のろう  
ほう  
やに放りこんでしま  
いました。

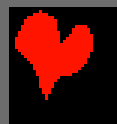


けれどもその後、神さまは、王さまの心を変えられたのです。神さまを信じる

ようになった王さまは、みんなにわからないように、そっとエレミヤをろうやか  
ら救い出しました。そして、エレミヤにたずねましたよ。「神さまは、王である

わたしに、何をするように言  
われているのか。」エレミヤの答えはこう

でした。「とらわ  
れ人となるのだ。  
そうすれば、あな  
たは生きてゆける  
だろうと神さまは  
言われている。」



ぐん ち  
バビロンの軍たいは、エルサレムとユダのほとんどの地を、  
じぶん もの  
自分たちの物としました。かれらは、かべやたて物すべ  
なに や  
てをこわし、何もかも焼きつくしてしまったのです。  
かみ い たみ ねん  
神さまは、言われました。「わたしの民は、70年  
びと  
のあいだ、とらわれ人とな  
ご  
るだろう。そしてその後、  
わたしは、かれらをやくそ  
ち  
くの地へつれもどす  
ことにしよう。」



ひと  
なみだの人、エレミヤ

かみ み せいしょ する  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

しょ  
エレミヤ書

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っています。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、思っています。それを、神さま  
は、罪とよばれています。その罪のむくい、死です。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをとて愛していますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ  
よ おく つみ し  
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども  
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのです。もし、あなたがイエスさ  
しん  
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま  
いま ところ き なか す  
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさ  
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて  
わたし なか き つみ わたし いま  
いらしています。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた  
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる  
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす  
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

